

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	メリーライフ株式会社 グループホーム里の家大曲(つつじ)	評価実施年月日	平成21年12月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>独自の理念はある。里の家の理念①安心して自由に生活出来る家であること、②生きがいをもって楽しく生活出来る家であること、③心豊かに自分らしく生活出来る家であること。④地域に愛され馴染みある生活の継続が出来る家であること。</p>	○	地域密着型サービスの理念と目的を職員全員が認識していけるようにする。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念の共有化が行われ、職員は内容を理解して仕事に当たって実践を図っている。</p>	○	毎日の申送り時に理念の申し合わせを行い継続的な目的意識を持てるよう努めている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>理念については利用案内時に説明文で周知を図りホームの見やすいところに明示し日々入居者並びにその家族に説明も行っている。</p>	○	主に運営推進委員会の中で理念についても話題としている。また、事業所パンフレットにも理念を掲載しており、広く理解して頂けるよう努めている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>日常的に散歩や買い物に出かけ近隣の方々との気軽に挨拶をされている。又、気軽に声を掛けて頂ける等。</p>	○	町内会行事等への参加は頻繁に行っており、ホームの敷地内での祭り実施等でも立ち寄り易い状況に努めているがまだ確実な成果(日常的に立ち寄って頂ける状態)とは言えない為現在の取組みを継続し更なる関わり向上に努める。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の町内会のご理解とご協力をいただき感謝している。地域の一員としてゴミ拾いや町内会行事への参加(ゴロッケー大会、パークゴルフ大会、地域のクリスマス会)老人会の訪問、絵手紙サークルの方々との定期的な交流などが続けられている。入居者の方々は地域の方からの声掛け・励ましを受けている。</p>	○	町内会の行事や地域の催し事には積極的に参加しており、ホームから外へ出て行く事は頻度増加しているが、地域の方が気軽に立寄って頂ける状態にはまだ時間を要すと見られる為、更なる取組み及び現行の維持向上に努める。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>一年に1回全ホームを上げてお祭り(「里の家まつり」)をして地域の方々との交流を図っている。回数を増すごとに参加者が増え、良い交流の時が得られる様になっている。</p>	○	地域の高齢者の方々にサービスの還元に関する取り組みがあるとよい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え全員で自己評価に取り組むようにしている。</p>		<p>自己評価及び外部評価内容について充分周知理解しており、毎月会議内でも評価項目を議題とした話し合いが成され1項目毎に職員意見(報告書)が明記され提出されている。改善項目を明確にする事で、目的に自然に向かえる体勢に努めている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議を市職員担当者、管理者、地域町内会会長、家族、地域包括支援センター職員、民生委員が参加し定期的に行い利用者やサービスの実際の報告や話し合いが行われてサービス向上につなげている。</p>	○	<p>運営推進委員会の内容については議事録としてだけでなく管理者からも説明が成されており、参考意見や今後の取組み課題としても活用している。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議を定期的に行い、更に市担当者との良い関係を築きながらサービスの向上に取り組んでいる。</p>		<p>今後更により良い関係が継続し常に協力し合える状態に努めていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち制度の理解と適用について把握している</p>	○	<p>今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者の権利擁護や高齢者虐待防止関連法をふくめ虐待についての研修会に参加し学習している。どのようなことが虐待になるかを理解し遵守にむけた具体的な取り組みを行っている。</p>		<p>今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行っているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止関連法についても学び虐待防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、運営を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者の状況変化により契約解除に至る場合は家族と対応方針を相談している。</p>		<p>利用される事での利点は勿論であるが、リスクについても十分説明し納得された上での入居を推進していく。グループホームの役割や機能について更に深く説明する事で理解を深めて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの苦情は書面をもって提出し、迅速な対応を心がけている。	○	現在苦情と捉えられる訴えはないが、今後継続して訴えを汲み取る姿勢で対応を行っていく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	里の家便りの定期的な発行、送付を行っている。また日常生活については担当者からご家族に面会、電話等で頻りに伝えている。またお小遣い利用状況、金銭管理状況も報告がなされている。		今後もご家族様とのコミュニケーションを深め、ホームでの入居者様の様子をより分かりやすくお伝え出来る様努める。また、写真等利用して生活の様子を知って頂く工夫もしていく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。苦情、不満、意見などを表出できるよう「ご意見箱」を設置している。ご家族様の面会時に日常生活の様子等をお伝えし、ご家族様と一緒に支援する体制を取っている。	○	家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会事等に聞かれた訴えについても記録として残し対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議等で運営者、管理者は共に職員の意見、要望を把握するよう心がけている。	○	入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の勤務体制は人員配置等難しい面を抱えながらも臨機応変に対応している。		職員の勤務体制や臨機応変な対応について、管理者と職員が話し合いながら調整している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	サービス確保の核心のひとつは職員との馴染みの関係性であることと理解し、職員の移動は最小限にするよう努力はされている		職員の急病等の止むを得ない場合に限り一時的な異動はあるが、普段よりユニット間の交流も盛んである事から、ホーム内全ての職員と入居者様が顔馴染みの関係を築けている。今後ホーム全体の交流機会を持つていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内での研修の実施と外部研修への参加が積極的に行われており、各職員は意欲的に参加している。今年により多くの研修会に各職員は参加する機会があった。	○ 職員の指導教育は基本的には管理者、計画作成担当者を主としているが、方針の理解や制度的な事項については、本部職員からも会議等を通じ常時職員周知が出来ている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	連絡会を設け2ヶ月に一回の割合で交流と話し合いの時を持ちと地域の活動状況を把握し、連携を図れるような活動が始まっている。	他ホームへの見学や相互研修会を持ち始めている
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	懇親会を開催し互いに交流を持ちストレスの軽減を図っている。また日常の業務の中でも休憩時間が必要であることを認識し輪番でとっている。	○ 今後、互助会だけでなく職員意見が更に聞き入れられる機会を本部で設けていくよう努めている。スペース的な問題は改善困難な為、その他の環境整備等で休憩時間のストレス緩和に努めていく。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	個別職員の業務や悩みを把握し職員が向上心を持って働けるよう職能評価をしている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場内で行かせる環境を作っている。	○ 職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	管理者と計画作成担当者は事前面談で生活状態を把握することに努め、ご本人の不安を理解しようと努力している。	家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞取りには困難を極める事もあるが、入居されてから密に関りを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ご家族が抱えている問題と現況を把握し、求めているものを理解する。また事業所としてどのような支援ができるかについて協議している。	初期に築いた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。また、不安や要望等をプラン内容に反映する事でも信頼関係を深められるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時、ご本人とご家族が必要としている支援を等事業所として提供が可能かどうかを見極めるようにしている。また必要時は他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用開始前に職員が出向きご本人と面識の時をもってはいるが馴染みの関係は時間的な課題がありすぐに利用となっている。そのためご家族にきていただくなどして安心感を持っていただくようにしている。		環境や職員に馴染んで頂けるよう関わりを多く持ち、他入居者様とも自然な関係が保たれるよう支援を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にできるようになりつつあります。菜園活動は互いに労し協力し合い、収穫の喜びも共有しあいました。入居者様から畑に関する知識を頂きました。一緒に外出し不安や悩みに傾聴しました。		出来る事と出来ない事を把握していく中、個々人様がストレスを感じず楽しめるものの提供及び支援に努め、更に関係を深めていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日常の様子や体調、受診結果などきめ細かく伝えることで、ご本人を支える環境を家族と協力して作りつつあります。また受診にご家族の協力を戴くことで本人と一緒に支えるという関係が強くなりました。		協力的なご家族様とそうではない方との開きはあるが、長く生活を共にし密な連絡体制を継続する事で少しでもケアに関心を抱いて頂けるよう努めていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時や電話でに日常の生活の様子をお伝えしている。また一緒に外出や食事をしていただき居室で過ごす時間を持っていただいている。		ご家族様には伝わらない本人様の思いや意向を職員が汲み取り、分かり易く説明する事で少しでも関係の改善を推進していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人様が大切にされてきた馴染みの関係を大切にす支援を行っている。月命日にお坊様に来ていただくなど昔からの生活習慣と関係性がもたれている。		ご本人様が大切にされてきた人や場所の把握に努め、可能な範囲で関係の継続にも努めている。今後も更なる支援を継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性を知り、行事の立案に際しては気の合う仲間で出かけたり、全員で出掛ける機会を多くした。認知力を考慮して関係性が良くなるテーブルの配置を行っている。		日々の生活の中で関係が変化する事もある為、常に関係把握に努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	関係を断ち切らない取り組みの必要性を自覚し長期・継続的な支援ができるように心がける		退居された方が入院されている病院や施設に立寄った際には、可能な限り声を掛ける等の配慮を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らしの意向、希望などを日々の会話の中から把握するようつとめ、実現できることは行っている。	○	意思疎通困難な方の場合、十分な把握は出来ていないと感じる。本人様の表情やしぐさ・反応等の細やかな変化を観察し、出来る限り思い・意向を汲み取り、ケアに活かして行きたい。また、入居者が自らの意向・希望を気軽に話せる関係を作っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族さまより生活暦、日々の暮らしかた、その人独自の生活暦やライフスタイルを聞くように努めた。センター方式導入により、これまでの生活暦や馴染みの暮らしの反映がなされるようになって来た。		情報収集が充分出来ていない方もいる為、今後より一層の知る努力を続け、入居者様の今の状態・生活だけを見るのではなく、長い人生のいろいろな経験や習慣を知り、これからのケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々、観察を行い心理状態も含めて把握し、これを職員間で経過記録として情報交換。能力を見極めた援助の提供を行っている。		現状の正しい把握が、その時必要なケアは何かを知る事に繋がる為、思い込みや決め付けはせず、常に変化を見逃さずに臨機応変な対応をしていきたい。また、総合的な把握には多くのスタッフの様々な視点による情報収集が不可欠な為、連携を蜜にしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月ごとのモニタリングを行ってケアプランの立案に反映させている。またケースカンファレンスや検討を行い利用者本位の介護計画を立てている。また介護計画にはご家族様の意向も取り入れている。		より本人様らしく生活して頂けるよう今後も常に話し合いをもとに多くの意見やアイデアを計画に反映して行く。また、入居者様やご家族様が意見を言いやすいような雰囲気作り、信頼関係の構築に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人及び家族の状況は変化していることを理解し、モニタリングと見直しを行っている。又骨折や入院等によって状況に変化が生じたときにはすみやかに介護計画の見直しを行い現状に即した支援をおこなうようにしている。		常に入居者個人様の変化に気付く職員間の情報交換を密に行えるよう努める。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々のカンファレンスで話し合い、記録に残して実践している。ケアプランに沿った記録をおこない、評価の際に利用して介護計画の見直しに生かしている。		情報交換及び共有する事が円滑に行なえており、その情報を基に日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	認知症対応型共同生活介護であるので認知症に関する知識、それをふまえたケアが実践されている。医療関連体制を生かして往診日を設けて負担の軽減を図っている。	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう「里の家祭り」等で地域の方々との交流を図っている。地域の民生委員、町内会、ボランティア等の協力をいただいている。	○	今後更に地域との関わりを深めていく事により、各関係との協働も更に向上出来る様努めて行く。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護予防の観点から整骨院での治療、訪問リハビリテーションをおこなっている。	○	同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域支援包括センターの職員が参加され、関係性の強化に繋がっている。在宅の情報を載いたり相談を受けたりと関係性を築き始めている	○	運営推進委員会の実施をきっかけに各関係と気軽に相談が行える状態である為、現在のところ問題を感じる事はない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p> <p>協力病院があり毎週往診にきて載っている。緊急時の受け入れ先ともなっている。しかしご家族が協力HP以外を希望された場合は意向を尊重した対応を行なっている。</p>		2週に1回の往診の他に定期受診等でも対応して頂けている。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p> <p>入居者の症状に応じて専門医と相談をし検査や治療、具体的な助言を受けている。</p>		定期受診及び特変時に相談行っており、日常対応についてもアドバイス頂けている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>提携医療機関、看護師との連携が密に取れており、受診や往診の相談、指示をいただく体制が整っている。</p>		必要時の相談や対応指示を仰げる状態であり、良好な関係が継続している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> <p>ご家族と情報交換をおこないながら病院と病状回復等を確認しながら早期退院に向けて話し合いをおこなっている。</p>		入院先の医療機関と情報交換等が円滑に行っており、早期退院に向けた対応のアドバイスや細かな指示等が頂けている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p> <p>ご家族の安心と納得が得られるように本人、家族と話し合いを繰り返し重ね方針の共有を図れるように努力している。</p>	○	職員全員が同じ支援方法を共有できるようにする
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> <p>研修等で重度化や終末期に向けた対応に関する知識と情報を習得し、ご家族、協力病院と連携を図りながら進めていく心構えがある。</p>	○	チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅からGHIに住み替える際には介護添書、家族からの情報収集を行い住み替えによるリロケーションダメージを少しでも少なくするよう努力している。</p>		<p>今後もダメージを防止する為に、ご家族様や本人様に関わる関係者と連携し、支援して行く。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ひとりひとりの誇り、尊厳を大切にするような言葉使いを行い、トイレ誘導時には耳元でささやくようにしている。また個人情報の流出が起きないように配慮している。</p>	○	<p>記録等はホームのテーブルで行なっている為、名前を伏せたり、入居者様が気にしなくて済むような工夫・配慮を行っている。声掛けは排泄に関してだけでなく、体調に関することや本人様への促しの際も必ず必要以上に大きな声にならない様注意している。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の方々が希望を表出し、自己決定ができるよう日々のケアの中で実践している。会話の際に希望を把握するようにしている。特に菜園活動では入居者の方々の希望を取り入れた作業計画を立てている。</p>	○	<p>日々の会話の中から更なる希望を探り納得しながら生活して頂けるよう努めている。また、意思表示が難しい方には、自己決定・自己選択の場面が少なくなってしまう為、言葉以外の部分からご本人を理解する努力をし、一人一人の思いや希望を形にしていきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居されている方々のそれぞれのペースと生活を大切に支援をおこなっている。</p>	○	<p>その人らしい暮らしを提供するには、まず一人一人が希望する過し方・生活ペースがどのようなものかを知る必要がある。各職員が入居者様とのコミュニケーションを深め、その人らしさと言うものを表出して頂ける様支援に努めている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人、家族の希望の理容、美容の店に通っている。身だしなみ(整髪、化粧)を整え気分が晴れるように支援をしている。</p>	○	<p>自ら希望される方は少ないが、定期的な声掛け等で希望を確認するよう努めている。また、日々の身だしなみにも気を使って頂けるよう声掛けを継続している。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>食事を楽しむことができる支援として好みのものの提供、季節感を感じれる食材の利用をしている。また自家菜園で収穫した食材を利用し採れたての野菜を味わっている。1、2名ではあるが食事づくりを一緒におこなっている。また、食べたい物の希望を取っている。(買い物等)食後のかたづけ(食器拭き)を行っている。</p>	○	<p>今後も継続して出来る事の支援に努め、積極的に参加して頂ける環境と関係の継続にも努めて行く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	晩酌等も身体を損なわない程度に提供している。好みのものを提供して楽しめるよう支援している。	○	タバコに関しては禁煙としているため支援はおこなっていない。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を作成し、一人ひとりの状況に合わせた支援をおこなっている。リハビリパンツの使用は最小限度にするようにしている。	○	おむつを出来る限り使用しなくて済むよう、また使っている方もその使用時間、頻度を少しでも減らせる様排泄の自立へ向けた支援を行なっていく。また、排泄表を活用する事で自排泄の促しも継続して行っていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	浴日は決めているが体調に合わせた支援をおこなっている。	○	入居者様一人一人の希望に添った、気持ち良い入浴が出来る様今後も支援して行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活のリズムを考慮しながら日中の活動時間を可能な限り提供している。また安眠を図れるよう環境を整える工夫をおこなっている。	○	道路に面しているため夜間の騒音がある
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様一人ひとりに得意な分野と楽しみがある。菜園での野菜作り、パークゴルフ、ハーモニカ、事務的な仕事、将棋、ぬり絵、室内ゲーム大会、貼り絵など等日常生活の中で行っており楽しみと気分転換になっている	○	日々の役割や楽しみごとの支援は常に現状で充分とは捉えていない為、より楽しめる生活環境や、活力の向上に向け取組み継続している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	9名中5名は金銭の自己管理を行っている。ご家族の希望や金銭管理が十分にできない方に対しては、ホームでお小遣いとしてお預かりしている。また月1に1度金銭管理の報告をご家族にしている。	○	随所、随所で支払い能力の確認等ができるよう今後積極的に支援したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節を肌で感じていただけるよう散歩、買い物などに積極的に出かけている。(パークゴルフ、家庭菜園、ドライブ)	○	外出が特定の人に偏りがちであるためバランスをとる。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	思いや願いを日ごろの会話から把握し、行事等で実施するようにしている。またご家族様の面会時には一緒に外出できるようにお願いをしている。また受診の際時にはご家族の協力をいただき一緒に外出をしている	○	今後は更に可能な限り、個別対応をしていきたい。また、行事にはご家族様の参加もして頂き共に出かけられる機会を多く作りたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があれば状況に応じて支援を行っている。公衆電話の設置もしている。ご家族からの手紙の行き来がある。	○	電話を掛けれないと決めつけずにご家族の声だけでも聞いていただくような丁寧な支援を試みる。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に面会に訪れており、入居者様の近況報告を伝えている。またご家族との交流を大切にしている。	○	今後も居心地良く過せる雰囲気作りに努め、気軽にコミュニケーション・情報交換等が出来るような関係作りをしていく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居時に家族と拘束のないケアの実施を契約し、実施している。また職員には権利擁護や身体拘束にかんする勉強会を研修などで行い職員共通の認識を図っている。		身体拘束は原則行っていないが、今後より具体的な事例や行為等を学ぶ機会を多く持ち、更なる身体拘束推進に努めて行く。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホームが交通量の多い幹線道路に面しており、入居者様の安全を図る観点から玄関の施錠はやむを得ない	○	ホーム長始め全職員が揃う日に「鍵を掛けない日」という日を設けて見ては。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながらさり下なく全員の状況を把握するように努めている。		職員同士声を掛け合い、それぞれの持ち場に責任を持つようにし、一箇所に固まらないでユニット全体の様子が把握出来るように努めている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物、洗剤など日中は台所にあるが夜間は人目につかないところに保管している。ライター、刃物類は預かりとし、必要時に渡すようにしている。		個々人様の状態やその時々状況に合わせ危険を取り除いている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のための取り組みは必須事項として常に重点的に話し合われている。		事故再発を防止できる様、事故報告書を活用して行く。また、ヒヤリハット事例を基に事故を未然に防ぐ為の対応策を練る。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の身体状況の急変や事故発生時にもあわせて確実に適切な行動が取れるよう日々話しあっている。また緊急時のマニュアルが作成され、掲示されている		今までの事故や急変等の事例を基に。より具体的な対応マニュアルを作成して行く。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練を行っている。運営会議で地域の協力を呼びかけている		地域の方々との協力体制を職員も把握し、共働する体制が必要。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	普段から家族との関係を密にし、ひとりひとりに予測されるリスクを家族に率直に話すようにしている。	○	状況の変化をさらに細やかに伝え起るであろうリスクをご家族と共有する必要がある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々人の状況を職員は把握しており、食欲やバイタルチェック等で体調の変化を記録している。必要と判断したときはHP受診につなげている。		今後も迅速に適切な対応を取れる様努める。自ら訴える事の出来ない方については、特に注意して観察して行く。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は個々の入居者の薬を把握しており、Drの支持通りに服薬の支援を行っている。また投薬時には声にだすことで誤薬を防ぐようにしている。		服薬管理については業務の一流れとして捉える事なく、複数の職員が確認出来、責任の所在についても明確としている。また、服薬方法も法人で取り決めた統一対応を行っている。今後更に処方箋変更時等に十分注意し対応継続していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	バランスの良い食生活を心がけ食物繊維を多く摂取している。散歩などからだを動かすよう努めている。また個々の体調に合わせた服薬管理を行っている。毎朝牛乳を提供している	○	今後も便秘の原因、その及ぼす影響をより深く理解出来るよう努め、食事・運動への取組みにより便秘せず、自然な排便が出来るよう支援して行く。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きの声掛けを行っている。口腔内に異常が見られた場合はHPIに受診している	○	重度化された方及び拒否の強い方の清潔保持が困難な場合もあるが、このような場合でも対応可能な歯科と都度相談行っており、入院加療等で良好な状態となられている方もいらっしゃる。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量について一日量をチェックし、少ないかたには摂取を促している。栄養のバランスについては献立表を確認ながら考慮したメニューを提供している。	○	個々人様の状況により摂取しやすい状況や支援の方法が異なる為、日々状態変化の把握に努めており、可能な限り自力摂取が行えるよう支援継続している。また、全介助に近い状態の方にも、好みや食べ易さを考慮し、安定した摂取量を維持出来るよう支援をしている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症を把握しそれぞれの感染症に対するマニュアルが作成され、対応について周知し、また閲覧できるようになっている。インフルエンザの予防接種の実施。消毒薬の設置をしている(ウエルパス)	○	今後も感染症に関する研修会等の参加により情報収集を行い、その内容を職員間で共有する事で予防に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾の毎日の消毒をマニュアル化している。賞味期限を守っている。近所にスーパーがあるので新鮮な食材をこまめに購入している。	○	今後も衛生管理を徹底し、食中毒の予防に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りの清掃を行い、草花を植えてやすらぎを感じる様にしている。季節ごとに鉢物の植え替えを行い季節の花々を観れるようにした。	○	冬季間、除雪が行われホームの前が明るくなった
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間には花、額などを用い家庭的な雰囲気でも過ごせるよう工夫されている。季節に応じた飾り付けをしている	○	今後も入居者個人様の能力に合わせた設備等の配置や休憩スペースの配慮を行い、季節感等にも充分工夫を凝らし居心地の良い空間作りに努める。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを対面式にするなど狭い空間であっても一人で過ごせる居場所づくりを行っている。廊下にもソファを置いて一人でいれる工夫をしている	○	日々の状況や個人様の変化に合わせて配置換えを行う等で対応しているが、今後更に柔軟な対応に努めて行く。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同生活の中で個室の果たす役割りは大きいことを認識し、ご本人が使い慣れた思い出のある家具、備品などを持ち込んで居心地の良い居室づくりをしている。(仏壇など)	○	個人様の能力による使い易さ及び馴染み等についても配慮しており、ご家族様からも本人様が居心地が良い状況等伺う事で快適で不安のない環境作りに努めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	高齢者の方々に合わせた室温、湿度を保つように工夫をしている。温度計、湿度計が設置されている。		温湿度計や個人様の要望に応じ随時対応しているが、特に温度についてはそれぞれ感じ方に相違がある為、着衣等での調節も合わせて行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	入居者にあわせ手すりなどが設置されているが身体機能には個人差があり、十分には配慮されているとはいえない。		個々人の身体機能に合わせた環境を作るためには経済的な負担がある。負担割合をどのようにして環境づくりを行うかはこれからの課題である。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々人の認知度を把握し、わかる形の目印を表示している。		入居者様の日々の分かる力には波がある為、随時対応を変えている。また、日常生活については入居者様が主役となり不安を感じず活躍出来る様さりげない支援に努める事で、混乱や失敗がおきないよう配慮している。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	園芸など行っているがプランターなども使用し、利用者が楽しめる空間を作っている。植樹もされているため緑の空間を楽しむことができる。夏はウッドデッキが組み立てられ、外で食事やお茶の時間を持ったりしている。	○	徐々にではあるが活用出来る空間が広がっており、入居者様の満足度も向上が伺えている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)